

平成29年度

第71回近畿地区聾（ろう）学校野球大会の審判について 明石公園第2球場

平成25年、平成28年と、この大会の審判をし、「今年もぜひ審判をしたい」と思っていました。大会役員をしている友人が転勤し、どうなることかと心配していましたが、姫路校と神戸校との間で1試合だけするという事になりました。（神戸校は部員1人と他の部からの応援出場が試合が可能）

前日の雨の影響で、11時15分から開会式があり、前年度の優勝校の姫路校から優勝旗の返還がありました。開会式終了後、11時30分から姫路校と神戸校の試合が始まりました。試合の審判は、両校から1名と私たちが主審と塁審を担当する形で始まりました。

試合中でのピッチャーや野手は、ファウルチップや三振をしてキャッチャーがボールを捕球できなかった時に、パスボールかファウルわからない「(音が聞こえない(聞こえにくい))という状況での野球でしたが、みんな一生懸命プレイをして、「決してあきらめない」「ミスをしてでも責めない・気持ちを切り替え次のプレーに備える」というスポーツ精神に則ったゲーム展開でした。監督やコーチの先生方も、守備位置の指示や、バッターへのアドバイスなど、手話やボードを使いながら手振り身振りで伝えておられました。

スタンドで応援しておられた家族の方々や先生方の姿、そしてハンディを持ちながらも、野球というスポーツに必死で挑戦している生徒の姿に感動し、また新たな気持ちで野球というスポーツに取り組む気持ちになりました。今後、また来年機会があれば審判という形で、この大会にかかわっていきたいと思いました。

●初めて審判をして

先日、明石第二球場で行われた近畿地区聾学校野球大会にボランティア審判として参加してきました。聴覚に障がいを持つ選手たちは手話やジェスチャーを交えてチームメイトとプレーの確認を行い、ベンチからの指示はポジションのボードを利用し、的確に行っていました。

私の感想

純粹に野球というスポーツを楽しむ選手を見て、スポーツの本来あるべき姿「みんなで競技を楽しむこと」に出会うことができました。

私は今回、聾学校の選手から**野球は楽しむものである**ということを学ぶことができました。「人から学ぶ」ということは上司や諸先輩方だけではなく、自分に関わる全ての人が対象になるという事をあらためて実感することができました。

今後、私自身、生徒たちに「**野球(打つ、守る、走る、投げる)の楽しさ**」、**成功した時の感動と失敗から成功につなげる努力の大切さ**を伝えていきたいと思います。

1日、普段は体験できない「非日常」を過ごすことができました。来年度もご依頼がありましたら喜んで参加したいと思います。



開会式の様子



(優勝・・兵庫県立姫路聴覚特別支援学校)

